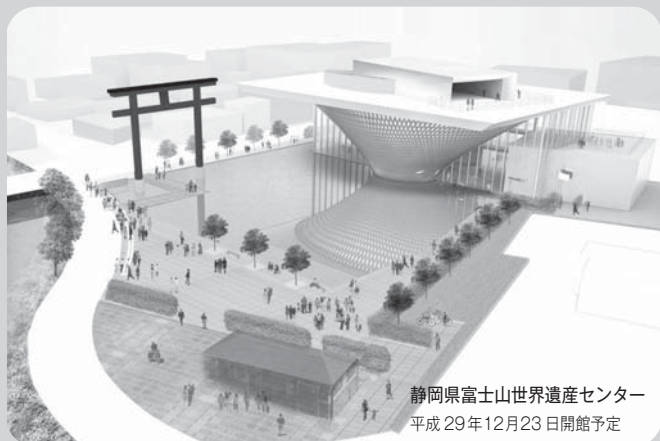


第5回

海を渡り伝えられた富士山。そう聞いて、思い浮かべるのは何ですか？

まずは葛飾北斎の傑作『富嶽三十六景』でしょう。この揃物は19世紀末ヨーロッパの芸術家たちに広く影響を与えました。作曲家クロード・ドビュッシーがそのうちの「神奈川沖浪裏」に靈感を得て交響詩《海》を作曲し、総譜の表紙に図案を借用したことはよく知られていますし、画家のポール・セザンヌは同揃物に触発され《サント・ヴィクトワール山》シリーズを描きました。ヨーロッパ文化圏を呑み込んだ—19世紀ジャポニズムの狂騒のなかフジサンは重要な役割をなうのです。

そのほぼ200年前、17世紀後半から18世紀前半のヨーロッパへ富士山が渡り、彼の地の人々を魅了していたことは余り知られていません。当時のヨーロッパは後期バロックからロココ文化の時代。シノワズリといわれる東洋趣味全盛の季節でした。王侯貴族たちは中国や日本から磁器や漆器を輸入し、オリエントの宝器でその豪華な宮殿を飾り立てました。とりわけ富士山をデザインした蒔絵は、パリやウィーン、ドレスデン、ミュンヘンはじめ各地の城館に花を添えました。



静岡県富士山世界遺産センター  
平成29年12月23日開館予定

program プログラム

日野原健司 (太田記念美術館主席学芸員)

「北斎—海を越える奇想の富士」  
(13:35-14:25)

松島 仁 (静岡県文化局准教授)

「シノワズリの華—ヨーロッパ  
王侯貴族が愛した富士山」(14:30-15:20)

●討論

「世界に伝えられた富士の美」  
(15:30-16:00)

講演者略歴：

日野原健司 (ひのはら けんじ)

太田記念美術館主席学芸員。慶應義塾大学非常勤講師。専門は浮世絵史、出版文化史。著書に『ようこそ浮世絵の世界へ』(東京美術・2015)、『怖い浮世絵』(青幻舎・2016)、『戦争と浮世絵』(洋泉社・2016)、『かわいい浮世絵』(東京美術・2016)ほか。



松島 仁 (まつしま じん)

静岡県文化局准教授。徳川記念財団特別研究員。愛知県立芸術大学非常勤講師。専門は美術史、文化史。著書に『徳川將軍権力と狩野派絵画—徳川王権の樹立と王朝絵画の創生』(ブリュッケ・2011)、『徳川家康—その政治と文化・芸能』(共著・宮帯出版・2015)ほか。

